

Graduate School of Japan Healthcare University

日本医療大学大学院

保健医療学研究科

保健医療学専攻(修士課程)

保健医療の実践的な
リーダーの育成を目指す

医療と福祉の現場から誕生した
日本医療大学

保健医療の 実践的なリーダーの 育成を目指します

科学的な根拠に基づいた医療及び
生活を支援する実践力、
研究を通して培った科学的・理論的思考を活かし、
新たな方向性を創造する研究力や多職種連携力、
さらに後進の育成を推進する教育力を持った
高度専門職業人の育成を目標としています。



総長からのメッセージ Message

学校法人
日本医療大学大学院
保健医療学研究科長
学校法人日本医療大学
総長
島本 和明

日本医療大学大学院は、
保健医療分野(看護学、リハビリテーション学、診療放射線学、臨床検査学、臨床工学)における
学術の理論及び応用を教授研究し、「北海道の保健医療需要に応える実践力のある人材の育成」
「チーム医療指導者の育成」「高度専門職業人の育成」により、
社会の発展と地域社会の保健医療水準の向上に寄与することができる
人材の育成を目的としています。

[学位]	[修業年限]	[入学定員]
修士(保健医療学)	2年(長期履修制度があります)	6名

1 高齢者療養支援領域

高齢者療養支援において中核をなす、
看護学/リハビリテーション学/臨床工学の3分野で、
それぞれに専門性の高い臨床研究遂行能力を有し、
かつ現場における深い相互理解に基づいた
多職種協働でのチーム医療を実現できる、
保健医療の実践的な現場リーダーを育成します。

2 診断技術領域

臨床診断に関連する診療放射線学と
臨床検査学の2分野で、相互の最新知識を共有し、
相互に理解を深め、特に共に従事できる超音波検査や
MRI検査での理解を強め、
臨床診断の現場での連携・チーム医療を実現できる、
保健医療の実践的な現場リーダーを育成します。

医療と福祉に関する
知識と技術を学ぶだけでなく、
人の「心の痛み」と
「涙」を理解できる
職業人を目指してほしい。

学校法人日本医療大学 理事長
つしま医療福祉グループ11法人の代表者
公益財団法人介護労働安定センター 理事
一般社団法人日本認知症ケア学会 評議員

対馬 徳昭



総長からのメッセージ Message

アドミッション・ポリシー

入学者受け入れの方針 本研究科は、日本医療大学の理念に基づき、全人的医療を担える、
地域社会に貢献する高度専門職業人の育成のため、以下のような人材を求めます。

1. 高度専門医療職として、その知識・技術を社会へ貢献しようという意欲がある人
2. 保健医療学の課題に関心を持ち、それを解決するために行動しようとする人
3. 保健医療学を幅広く学ぶために必要な、人文科学・社会科学・自然科学等の基礎知識を有している人
4. 責任感と倫理観を備え、創造性や社会性、自己統制力及びコミュニケーション能力を兼ね備えた人
5. 保健医療学分野の指導的役割を担う意欲のある人

カリキュラム・ポリシー

教育課程編成方針 本研究科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を全体的に編成し実施します。

1. 本研究科を構成する、看護学、リハビリテーション学、診療放射線学、臨床検査学、臨床工学の
知識・技術の相互修得により多職種連携を推進できるカリキュラム編成とする。
2. 本研究科の研究領域として、「高齢者療養支援領域」と「診断技術領域」の2つの領域を設け、高齢者療養支援領域では
看護学、リハビリテーション学、臨床工学で3特論、診断技術領域では診療放射線学と臨床検査学で4特論を設置する。
3. 上記2の研究領域ごとに、研究を推進できるカリキュラム編成とする。
4. 人の健康増進や診療に関わる基礎的要素を涵養し新たな保健医療学の研究を図るうえで必要な
幅広い知識が修得できるように、特別研究、専門科目とは別に、共通科目7科目と専門支持科目14科目を設置する。
5. ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術、後進の育成力を修得するために、選択する研究領域ごとに
共通科目、専門支持科目、専門科目を適切に組み合わせることが可能なカリキュラム編成を行う。

ディプロマ・ポリシー

学位授与方針 本研究科では、2年以上在籍のうえ所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、
修士論文の審査に合格し、以下の能力を身につけた者に課程修了を認定し、
修士(保健医療学)の学位を授与します。

各領域共通

1. 人間の尊厳を理解し、高い倫理観と豊かな人間性を身につける。
2. 多様な文化と価値観を理解し、臨床現場で実践可能な高度専門性を修得する。
3. 保健医療制度を理解し、多職種間での調整能力を備え、保健医療福祉の多職種チームの一員として
地域医療に積極的に関わることができる。
4. 保健医療に関する高度な知識を修得し、地域医療の課題分析に基づき
科学技術の発展や社会情勢の変化を踏まえた研究課題を持ち、探求できる。
5. 臨床の現場における後進の育成を担える知識・技術及び指導力を身につける。

各領域で養成する能力

[高齢者療養支援領域]

1. 医療・介護の現場における連携・協働が重要な看護学、リハビリテーション学、臨床工学の3分野で知識と
技術を相互に修得し、高齢者保健医療を深く掘り下げて、新たな方向性を創造できる研究の遂行能力
2. 地域の現状と課題、ニーズを適切に把握し、高齢者の健康の保持・増進、疾病予防、
福祉の向上に資するための実践的能力

[診断技術領域]

1. 臨床診断に関連する診療放射線学と臨床検査学の2分野で、診断学に関する最新の知識と
技術を相互に理解・修得し、各々の分野における臨床能力を向上させるとともに、
両者の連携とチーム医療を推進し、地域医療の診断検査領域の指導者として活躍できる能力
2. 診療放射線技師と臨床検査技師が共に従事できる共通検査領域である超音波検査と
MRI検査の診断・技術を深化する能力

特別研究担当教員		※令和8年度から新しい特別研究分野を追加
高 齢 者 看 護 支 援 学	教授 小野 幸子	高度高齢者看護の実践者として、「高齢者看護支援学特論と演習」の学修を知識基盤に、高齢者看護(学)の質向上に資する研究に取り組みます。指導可能な主な研究課題は、「老性変化と様々な健康障害により生活機能の低下・障害をきたし、様々な場で療養生活している高齢者とその家族への看護」「認知症高齢者とその家族への支援」「高齢者の看取りを含むエンド・ライフ・ケア」「高齢者の発達課題達成への看護方法」「高齢者看護における倫理的問題・課題と取り組み」「基礎教育課程や継続・卒後教育における老年看護学教育」などです。
	教授 溝部 佳代	生体反応を指標とした準実験研究・介入評価や、患者・家族および看護師の経験や認識を明らかにする心理学的アプローチにより、急性期看護(周術期、救急、重症集中ケア)を探索しています。 1. 手術患者の術中低体温を予防する加温用具およびケアプログラムの開発 2. 手術室・病棟・外来における周術期管理および看護ケアに関する研究 3. 臨床看護師の卒後教育、看護実践の質向上に関する研究
	教授 進藤 ゆかり	地域で病を抱えながら暮らす人々の支援について、病院、施設、地域、在宅の多様なフィールドで研究をしています。新薬開発の臨床試験、CRCに関する研究も手掛けています。 1. 疼痛を抱えた療養者の生活体験やQOLを支えるための研究 2. 難病、がんなど病を抱えたすべての世代の人々の地域包括ケアシステムや多職種連携に関する研究 3. 人々の家族観、高齢者観に関する研究 4. 退院支援や訪問看護、臨床試験・治験に関する研究
高 齢 者 療 養 支 援 領 域	教授 矢口 智恵	感覚・認知機能と平衡機能・運動制御能との関連について探索しています。具体的には生体力学的手法や動作解析学的手法に加えて神経生理学的手法を用いることで、姿勢・運動制御と関連する感覚機能や認知機能に関して検討を行う研究を実施します。このような基礎的な機能を明らかにすることで、高齢者の健康増進や介護予防に応用できる知見を考察します。
	教授 岸上 博俊	高齢者の生活支援には、環境を適切にとらえる必要があります。国際生活機能分類(ICF)でも環境因子として、物理的環境、人的環境、社会制度的環境の3つの側面から検討する必要性が示されています。中でも物理的環境である「車いす」や「手すり」をはじめとした福祉用具の研究は、高齢者支援には必須のものになります。力学的な側面からの検討はもちろん、脳血流や脳波などから福祉用具が人にどのような影響を与えているのかについての研究を行います。
	管 理 学 専 攻 教授 千原 伸也	高齢者は加齢に伴う免疫機能の低下などにより敗血症の発症リスクが高く、血液浄化療法は敗血症治療の重要な柱の一つとして位置づけられています。本研究領域では、臨床に則した敗血症治療の一環として、血液浄化療法の施行方法や条件設定の最適化、デバイスの改良・開発について取り組みます。 1. CRRTにおけるメディアータ除去と生体適合性の評価 2. 敗血症に対するDHPの有効性の検討—吸着飽和、施行時間の最適化 3. "身体に優しい"血液浄化療法の実現化に向けたデバイスの開発
診 断 技 術 領 域	教授 品川 雅明	分子生物学としてロング・ショートリードの次世代シーケンサーをはじめとした各種遺伝子解析法や質量分析装置をはじめとした蛋白質解析法を応用し、微生物分野におけるさまざまな研究を行います。 1. 菌種同定が困難な細菌において全ゲノム解析によるANIおよびDDH解析による菌種同定 2. 薬剤耐性菌において関連する薬剤耐性遺伝子の解析 3. 分子疫学解析により市中で流行している微生物を特定しその病原遺伝子の解明 4. 質量分析装置を用いた新たな薬剤耐性因子検出法の開発
	教授 望月 真希	各種微生物における菌種解析や発現遺伝子および蛋白の量や質は未だ不明な点が多くあります。そこで、DNA解析(PCR法やシーケンス等)、mRNA発現解析(リアルタイムPCR)、蛋白質発現解析(ELISAやウェスタンブロット等)を用いて、同定困難な菌種解析や同じ菌種での発現遺伝子の違いや蛋白質の量や質の検討を行ない、病原性と非病原性での違いを検討します。

病 態 情 報 医 学 科	教授 浅沼 広子	ホルモン受容体陽性乳がんの免疫組織学的解析による免疫病理形質の分析 エストロゲン受容体陽性乳がんは、従来の治療法では約40%の症例で転移・再発するため、新たな治療法の開発が必要不可欠です。本研究では、新技術を用いた病理組織学的解析により、乳がん組織の腫瘍微小環境を解析し、免疫逃避形質と免疫チェックポイント阻害剤抵抗性の原因を解明することを目的とします。本研究成果は、乳がんの約7割を占めるER陽性乳がんに対する新規治療法を提供することに貢献すると期待されます。
	教授 梅森 祥央	1. 「メタボリックシンドロームの指標としてのPKCζに関する研究」 PKCζのmRNAおよび蛋白の発現量やPKCζに対する自己抗体の検出系を構築し、肥満や2型糖尿病との関係を調べPKCζがメタボリックシンドロームの指標になるか否かを検討します。 2. 「質量分析法による認知症の血液バイオマーカーに関する研究」 質量分析法による血液中Aβ検出法を確立し、測定法の性能評価やバイオマーカー能力の検証を行います。
	教授 菊地 実	超音波画像のAIによる判読システムの開発や超音波診断装置に搭載されるElastography、Attenuation Imagingの基礎的検討を行い、臨床に活用される研究を目指しています。 1. AIを利用したインスリン由来アミロイドーシスの超音波画像判読システムの開発 2. Elastographyの表示精度に関する研究 3. Attenuation Imagingの影響因子に関する研究
診 断 技 術 領 域	准教授 岡田 一範	以下に例示するように、超音波検査や生体機能検査に関する研究を実施する予定です。ただし、個々の研究テーマについては事前に相談の上、検討していきたいと考えています。 1. 「左室や左房の心筋機能評価に基づく心不全や不整脈の発症リスク層別化」 2. 「横隔膜超音波法による呼吸筋力評価法に関する研究」 3. 「下肢挙上負荷前後の心血管機能の変化に関する研究」
	教授 竹内 文也	MRIを中心とした高度生体計測システムやその科学的応用に関する知見とその臨床応用に関する知見に基づき、地域医療サービスの一つとしてシステムを運用するための課題などを見出して、その解決方法の提案とシミュレーションによる効果の検証を行います。例えば、従来のMRIでは不可視な病変を、MRI情報と電気生理学的情報とを融合することで可視化を試みます。また、MRIが不可視となる原因の検討から、新たなMRI解析手法の開発を試みます。
	教授 原田 邦明	頭部領域の1.5T-MRIにおける新撮像シーケンスおよび画像解析方法の開発 1. 定量的磁化率マッピング(Quantitative Susceptibility Mapping: QSM)の臨床応用 2. ASL (Arterial Spin Labeling)による脳血流量 (CBF)の解析方法の開発および臨床評価 3. 機械学習を応用した画像ノイズ低減(AI-Denoise)について、画像評価およびアルゴリズム改善
磁 気 共 鳴 医 工 学	教授 福山 篤司	主に磁気共鳴装置(Magnetic Resonance; MR装置)を用いた研究を行っています。 1. 血管内の血液の流れを可視化し、血管性病変にどのような影響を及ぼすのかを研究します。 2. 3Dプリンタで作製した流体ファントムに拍動流ポンプを用いて擬似血液を流し、3D cine Phase Contrast MR (4D flow MR)撮像をすることで、血流動態解析の基礎的検討を行います。 3. 医療画像における画質評価法の開発、AIを用いた画質改善の開発
	教授 樋口 健太	医療診断で使用される放射線や、医療分野以外の自然界に存在する放射線が健康に与える影響について研究を行っています。具体的な研究テーマの例を以下に示しますので、参考にしてください。個々の研究テーマについては、相談しながら決定することができます。 1. 医療被ばくによる健康影響とその低減に関する研究 2. 環境放射線が健康に与える影響に関する研究 3. 放射線教育に関する研究
放 射 線 診 断 学	准教授 黒蕨 邦夫	マンモグラフィは乳がん検診および診療に広く用いられています。これらマンモグラフィをはじめとする医用画像の解析、がんスクリーニングにおける画像検査の有用性に関する研究を中心に行います。 1. マンモグラフィ等の乳腺の医用画像解析、撮影(撮像)技術、精度管理に関する研究 2. がんスクリーニングにおけるX線画像検査の有用性の評価、画質と被曝の最適化、がん予防啓発に関する研究

特別研究特論・演習担当教員

教授 河原畑 尚美 (高齢者療養支援領域 高齢者看護支援学特論・演習)
 講師 斉藤 徳 (高齢者療養支援領域 高齢者療養機器管理学特論・演習)
 講師 加川 宗芳 (高齢者療養支援領域 高齢者療養機器管理学特論・演習)
 准教授 白石 祐太 (診断技術領域 放射線診断学特論・演習)

その他関連領域教員

教授 島本 和明 教授 山崎 公美子 教授 志渡 晃一
 教授 松本 真由美 教授 森口 真衣 教授 向井 康嗣
 准教授 小林 英司 非常勤 大西 浩文(札幌医科大学教授)

特別研究スケジュール

年次	月	学生	指導教員	研究科委員会・倫理委員会
1年	出願	研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究領域および研究指導教員希望	履修指導	領域・指導教員決定、通知
	5	研究課題決定、研究計画書作成、提出 倫理委にて研究計画確認 研究遂行	研究課題、研究指導	倫理委員会審査
	6		研究指導	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11	随時提出 11月期限		随時提出 11月期限
	12			
	1			履修状況確認
	2			
3	中間発表会	中間発表会	中間発表会 単位認定	
2年	4			
	5			
	6			履修状況確認
	7	中間発表会	中間発表会	中間発表会
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			主査・副査決定
	1	修士論文完成、提出	修士論文完成	論文審査・試験
	2	論文審査・試験		
	3	単位認定	研究発表会	研究発表会 修了認定(学位授与)

各特論における学生の職域に則した履修モデル(一例)

必修● 領域必修○ 選択必修● 選択○
(注)1前…1年次前期、1後…1年次後期

履修モデル1

高齢者看護支援学

高齢者の健康問題や社会の動向をグローバルに捉え、高度な専門知識と豊かな臨床経験の両面から、エビデンスに基づいた基礎研究や応用研究を自律的に推進して的確な分析・評価などを行い、地域や保健医療機関等が抱える課題解決に貢献できる実践的リーダーを目指す学生の履修モデル。この領域では、高齢者看護支援についての最新の知識と技術を学修し、この領域で指導的な役割を担う人材の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●高齢者看護支援学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●健康科学管理学特論	1後		●高齢者看護支援学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		○高齢者看護学特論	1後		●高齢者看護支援学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		○地域・在宅看護学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●生活機能リハビリテーション学特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		●神経機能リハビリテーション学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	●臨床工学特論	1後					

履修モデル2

高齢者生活機能支援学

高齢者の健康や保健行動に関する機関や施設で介護予防もしくは、疾病予防に関わる専門的業務に従事するための実践能力を深め、この分野の指導的役割も果たせる多角的な視点を持った高度専門職を目指す学生のモデル。この領域では、高齢者生活機能支援についての最新の知識と技術を学修し、この分野で指導的な役割を担う人材の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●高齢者生活機能支援学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●健康科学管理学特論	1後		●高齢者生活機能支援学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		○生活機能リハビリテーション学特論	1後		●高齢者生活機能支援学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		○神経機能リハビリテーション学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●高齢者看護学特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		●地域・在宅看護学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	●臨床工学特論	1後					

履修モデル3

高齢者療養機器管理学

加齢に伴う生理学的予備能の低下や多臓器脆弱性を有する患者に対し、急性期から回復期にわたる医療機器管理の臨床実践を踏まえ、機器運用や治療介入の妥当性を判断し、エビデンスに基づいた実践を主導できる人材育成を目指す学生モデル。本領域では、高度医療における生命維持管理機器に関する知見を基盤とし、臨床現場に根ざした仮説構築と検証を通じて、当該分野の学術的発展と臨床応用に貢献できる高度専門職の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●高齢者療養機器管理学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●健康科学管理学特論	1後		●高齢者療養機器管理学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		●生活機能リハビリテーション学特論	1後		●高齢者療養機器管理学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		●神経機能リハビリテーション学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●高齢者看護学特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		●地域・在宅看護学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	○臨床工学特論	1後					

履修モデル4

生命情報医科学

生命情報医科学における分子生物学として、特に重要なゲノム遺伝子やたんぱく質の構造・解析法の基礎及び微生物同定や薬剤耐性因子解析、がん診断への応用について学修し、この分野の指導的役割も果たせる多角的な視点を持った高度専門職を目指す学生のモデル。この領域では、生命情報医科学についての最新の知識と技術を学修し、この分野で指導的な役割を担う人材の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●生命情報医科学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●画像診断技術学特論	1後		●生命情報医科学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		●医療磁気計測工学特論	1後		●生命情報医科学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		●医用画像工学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●放射線診断技術特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		○病態腫瘍学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	○生化学特論	1後					
				○分子生物学特論	1後			

履修モデル5

病態情報医科学

種々の疾患や病態評価における臨床検査とくに病理検査、臨床化学検査および超音波検査の役割について学修し、現場での連携や円滑な多職種チーム運営を行える実践的なリーダーを目指す学生のモデル。この領域では、診断技術支援についての最新の知識と技術を学修し、この領域で指導的な役割を担う人材の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●病態情報医科学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●画像診断技術学特論	1後		●病態情報医科学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		●医療磁気計測工学特論	1後		●病態情報医科学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		●医用画像工学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●放射線診断技術特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		○病態腫瘍学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	○生化学特論	1後					
				○分子生物学特論	1後			

履修モデル6

磁気共鳴医工学

情報を包括的に評価できる優れた画像診断能力を有し、得られた情報に基づき、医師との適切な治療についての提言やディスカッションを行うなど、現場での連携や円滑な多職種チーム運営を行える実践的なリーダーを目指す学生のモデル。この領域では、診断技術支援についての最新の知識と技能を学修し、この領域で指導的な役割を担う人材の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●磁気共鳴医工学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●画像診断技術学特論	1後		●磁気共鳴医工学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		●病態腫瘍学特論	1後		●磁気共鳴医工学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		●生化学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●分子生物学特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		○医療磁気計測工学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	○医用画像工学特論	1後					
				○放射線診断技術特論	1後			

履修モデル7

放射線診断学

診断で使用されるCTやマンモグラフィ、自然界の環境放射線についてより深い学修を行い、現場での医療被ばくの低減や放射線診断機器の精度管理、放射線安全管理などの運営を行える高度専門職を目指す学生のモデル。この分野では、放射線診断学についての最新の知識と技能を学修し、指導的な役割を担う人材の養成を目的とします。

共通科目	●専門職連携論	1前	専門支持科目	●保健医療学特論	1前	専門科目	●放射線診断学特論	1後
	●保健医療学研究方法論	1前		●画像診断技術学特論	1後		●放射線診断学特論演習	2前
	○医療倫理学	1前		●病態腫瘍学特論	1後		●放射線診断学特別研究	通年
	○保健医療統計学	1前		●生化学特論	1後		(修士論文)	
	○保健医療学教育論	1前		●分子生物学特論	1後			
	○生涯発達心理学	1前		○医療磁気計測工学特論	1後			
○公衆衛生と疫学	1前	○医用画像工学特論	1後					
				○放射線診断技術特論	1後			

[入試日程]

社会人入学試験 一般入学選抜試験	出願期間 (当日消印有効)	試験日	合格発表	入学手続締切日 (必着)
	2025 9/26(金) ▶ 10/10(金)	2025 10/25(土)	2025 11/4(火)	2025 11/14(金)
	2026 1/30(金) ▶ 2/13(金)	2026 2/21(土)	2026 3/3(火)	2026 3/13(金)

試験会場: 日本医療大学 月寒本キャンパス 札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号

[講義時間]

講義は原則18:00~21:10に行います。

[長期履修制度]

1. 職業を有している者、家事・育児・親族の介護等に就いている者を対象に、標準修業年限2年を最大2年間延長し、修業年限3年または4年を選択することができる制度です。なお、入学金を除く授業料を履修する年限に応じて分割納入できます。
2. 長期履修制度を希望する場合は、出願時に申請書(本学所定の「長期履修申請書」)と一緒に提出してください。可否判定と併せて申請の可否を決定し、合格発表時に通知します。なお、入学後にも申請することができます。
3. 授業料は前期と後期に分けることも、年額で納入することも可能です。初年度前期の授業料納付は、入学手続時となります。

[奨学金]

各種奨学金については電話、学生窓口でご相談いただくか、日本学生支援機構のホームページでご確認ください。

[大学院へのアクセス]



札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号

- 交通アクセス
- 地下鉄東西線「南郷13丁目」駅から徒歩約10分
 - 地下鉄東豊線「福住」駅から徒歩約13分
 - 地下鉄東豊線「月寒中央」駅から徒歩約15分

SNS公式アカウント



医療と福祉の現場から誕生した
日本医療大学

〒062-0053 札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号
入試センター「大学院担当」
TEL.011-351-6100(代表) FAX.011-351-6160
E-mail pr_daigakuin@jhu.ac.jp

<https://www.jhu.ac.jp/> 日本医療大学 検索



日本医療大学は、2019年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、2020年3月11日付で「評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合している。」と認定されました。